美術とインテリアの出会い

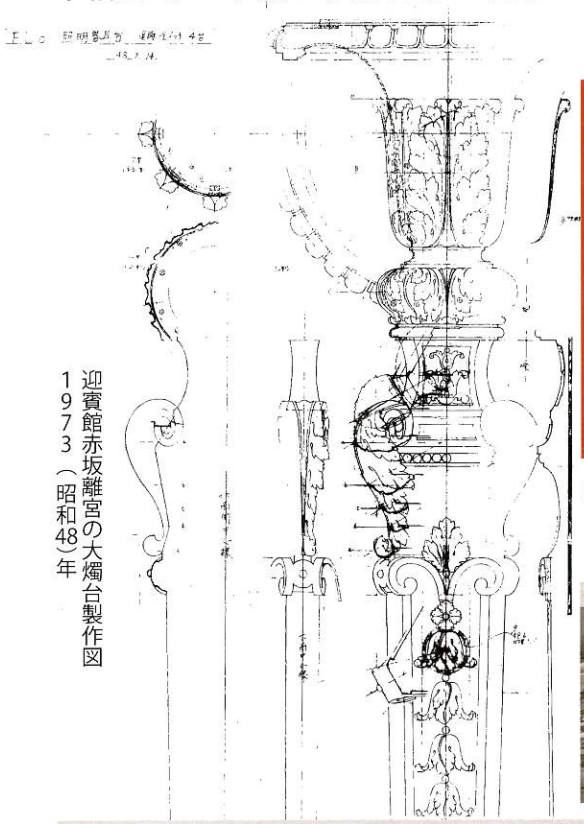
―髙島屋・装飾事業のあゆみ―展

協力：髙島屋スペースクリエイツ株式会社

〈前期〉2015年10月1日（木）～11月14日（土）　〈後期〉2015年11月16日（月）～12月25日（金）

午前10時～午後6時（前後期とも最終日は午後5時閉館）/休館日＝水・日曜日/会場＝髙島屋史料館 /入場無料

出品協力：一般財団法人家具の博物館・住江織物株式会社・三菱重工業株式会社横浜製作所



迎賓館赤坂離宮の大燭台製作図
1973（昭和48）年

髙島屋は明治時代より、美術染織品の製作で培った経験を活かし、公共建築物、船舶の内装、また劇場の緞帳などを手がけてきました。そのノウハウは、現在も継承されています。本展覧会では、約140年におよぶ、髙島屋の装飾事業の軌跡を、当時の資料や写真を通して振り返ります。

はじまりは、明治11年の段※通店でした。

※段通：手織りの高級な屋内用敷物

緞帳「みやまの四季」の製作風景
1957（昭和32）年頃

前田青邨「みやまの四季」
（大阪・毎日ホール緞帳原画）
1957（昭和32）年

©Y.MAEDA & JASPAR,tokyo,2015Co712

髙島屋史料館

髙島屋史料館
〒556-0005 大阪市浪速区日本橋3-5-25
髙島屋東別館 南側入口3階
TEL(06)6632-9102

美術とインテリアの出会い
―髙島屋・装飾事業のあゆみ―展

Takashimaya archives

出品協力：一般財団法人家具の博物館
住江織物株式会社
三菱重工業株式会社横浜製作所
協力：髙島屋スペースクリエイツ株式会社

髙島屋は、創業180余年のあゆみの中で、装飾事業（インテリア・家具）の分野にも挑戦し、その事業を国内外に発展させました。1878（明治11）年、京都烏丸の本店に隣接して南店（段通店）を開設したことがそのはじまりです。明治時代中期以降、美術染織品の製作で認められるようになり、そこで培った経験を活かし、公共建築物、船舶、鉄道の内装や家具から劇場の緞帳まで事業を広げていきました。その事業は昨年135周年を迎え、現在もグループ会社・髙島屋スペースクリエイツ㈱へと継承されています。本展覧会では髙島屋の装飾事業のあゆみを作品、資料とともに紹介いたします。

迎賓館赤坂離宮
「花鳥の間」のものと
同型の椅子

公共建築物の室内装飾

髙島屋は明治時代中期より皇室御用として室内装飾の受注生産を拝命、その中で培われた技術、経験が大きな財産となりました。迎賓館赤坂離宮の昭和の大改修（1974年竣工）では、家具・照明器具・造作工事で参画し、納入した洋式照明器具のひとつは、同館唯一の国内設計・製作です。

フランス・ルイ16世様式の
肘掛椅子のミニチュア（縮尺1/5）
一般財団法人家具の博物館

迎賓館の仕事の受注に伴い、欧米の宮殿などの家具の歴史を徹底的に研究。担当した設計部員は、当時としては世界でも類をみない詳細な世界の家具体系図をまとめ、またのちに、その研究成果を後進に残すべくミニチュア家具を制作しています。

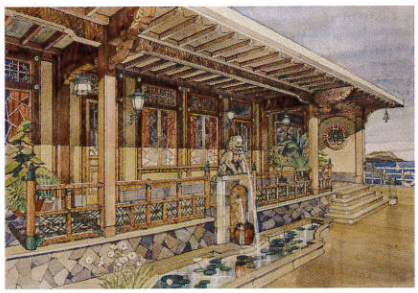
緞帳の調製

当社は美術染織品の製作等での経験を活かし、著名な画家の原画によるものを中心に、明治時代末期より数々のすぐれた美術緞帳を調製しました。それは戦後にも受け継がれ、東京・大阪の歌舞伎座や大阪・毎日ホールなどの緞帳を次々と手がけました。装飾、美術などまさに髙島屋の総力で表現する仕事といえます。

東京・歌舞伎座緞帳「泰山木」の配色図
1961（昭和36）年頃

船舶の室内装飾

当社は明治時代後期より、日本の造船の発展とともに、貨客船や連絡船、大型客船などの内装や家具などを手がけてきました。中でも大型客船は、昭和時代初期までは自国の船舶であっても内装設計は欧米の会社が中心でしたが、秩父丸（1930年竣工）などを手がけ、その中に進出していきました。



秩父丸 1等ベランダ（船尾の展望ベランダ）透視図
昭和時代初期
三菱重工業株式会社横浜製作所蔵

創作家具 「シャンブル・シャルマント展」の開催

シャンブル・シャルマントとは、フランス語で「魅力ある部屋」。戦後、新しい生活のあり方が模索されていた時期に、いち早く住まい方の提案をした催事でした。設計・装飾部門のデザイナーたちによる社内公募を行い、髙島屋工作所（当時）などの協力工場で試作が重ねられ、製品化・販売されました。

第1回シャンブル・シャルマント展　1956（昭和31）年

※所蔵情報のないものはすべて当館蔵

〒556-0005
大阪市浪速区日本橋3-5-25
髙島屋東別館 南側入口3階
TEL（06）6632-9102